

第8章

関連資料



5月17日 山陽新聞

ESD-J の事業一覧

2006 年

開催日	活動区分	開催地	事業名	内 容	参加人数
5 月 29 日	政策	東京	第 1 回 ESD 情報交換会 ～政府と市民の意見交流 ミーティング～	開催政府や関係機関の担当者と、全国各地で ESD を実践する市民が参加し、各省庁の ESD 関連事業の紹介や、地域での実践事例の報告などをおして、官・民が情報を交換。今後の対話に向けて「顔の見える関係」を築く	71 名
6 月 14 日 ～ 15 日	国際	宮城	アジア協力対話 (ACD) 第 3 回環境教育推進対話	仙台市および松島町にて、アジア協力対話 (ACD) 第 3 回環境教育推進対話を開催。ESD の 10 年をテーマに、アジア諸国の取組みについて意見交換。日本の ESD の 10 年の実施計画を公表。共催：外務省、仙台広域圏 RCE、ESD-J	150 名
7 月 29 日 ～ 30 日	地域	高知	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト)	in 高知 主催：国際理解の風を創る会、共催：ESD-J、国際協力機構四国支部 (JICA 四国)、四万十町自主研「国際理解教育部会」	50 名
8 月 4 日 ～ 6 日	国際	東京	AGEPP 第 1 回国際会議	アジア 6 カ国のパートナー団体からの参加者とともに、アジアの各国で取り組まれているさまざまな事例のなかから、ESD の視点や枠組み、事例を共有する意義などを話し合う。8 月 4 日夜には、ESD-J 会員と、各国参加者との交流会を開く	30 名
10 月 4 日	地域	東京	第 1 回 ESD シナリオづくり プロジェクト	環境教育、人権教育、福祉教育などの地球の課題に取り組む教育分野の全国組織 9 分野 14 団体の担当者が集まり、ESD を各教育のなかで活かしていくためのシナリオづくりのプロジェクト (全 5 回) がスタート	18 名
10 月 21 日	地域	埼玉	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト) ステップ 2	関東広域圏地域ブロックミーティング in 埼玉 ESD 推進を図るコーディネーター育成のための地域ブロックミーティングの第一弾。主催：持続可能な開発のための教育の 10 年さいたま 共催：ESD-J	25 名
10 月 22 日	地域	千葉	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト)	in 土気 (千葉市緑区) 主催：緑の環・協議会、ESD-J	49 名
11 月 1 日 ～ 2 日	政策	東京	環境省 ESD 促進事業 キックオフミーティング	全国事務局：ESD-J 環境省の ESD 促進事業の開催地 10 カ所が決定。事業のスタートにさいし、各地の担当者が集い、それぞれの課題や目標を共有	46 名
11 月 6 日	地域	東京	第 2 回 ESD シナリオづくり プロジェクト	人権教育と自然保護教育の未来志向タイムラインづくり	22 名
11 月 19 日	地域	山梨	第 3 回 ESD シナリオづくり プロジェクト	〇〇教育の歴史や経験を束ね、共有し、ESD につながる「大きなシナリオ」をつくる	25 名
11 月 26 日	地域	熊本	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト)	in 水俣 主催：熊本ネイチャーゲーム協会、ESD-J	20 名

12月2日	地域	栃木	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト) ステップ2	関東広域圏地域ブロックミーティング in 栃木 主催：宇都宮大学陣内研究室 共催：ESD-J	22名
12月7日 ・17日	地域	岡山	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト) ステップ2	ESD コーディネーター養成講座を開催 主催：岡山市京山地区 ESD 推進協議会、 共催：ESD-J	各 25名
12月11日	地域	東京	第四回 ESD シナリオづくり プロジェクト開催	ESD の「大きなシナリオ」づくり	14名
12月21日	地域	東京	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト) ステップ2	ESD-Hino ワークショップ1を開催 主催：ESD-Hino、共催：ESD-J	15名

2007 年

開催日	活動区分	開催地	事業名	内 容	参加人数
1月17日	地域	神奈川	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト) ステップ2	関東広域圏地域ブロックミーティング in 神奈川 主催：麻布大学村山研究室、ふちのべ塾 共催：ESD-J	15名
1月20日	地域	石川	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト)	in 石川県 主催：持続可能な社会つくりい しかわ、共催：ESD-J	23名
1月25日	地域	東京	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト) ステップ2	ESD-Hino ワークショップ2を開催 主催：ESD-Hino、共催：ESD-J	15名
1月28日	地域	千葉	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト) ステップ2	関東広域圏地域ブロックミーティング in 千葉 主催：ESD ちばミーティング実行委員会 共 催：ESD-J	10名
2月1日	地域	東京	第五回 ESD シナリオづくり プロジェクト開催	ESD を実践する「小さなシナリオ」をつくる ワークショップ開催	16名
2月3日 ～4日	地域	岡山	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト) ステップ2	ESD フェスティバルを開催 主催：岡山市京 山地区 ESD 推進協議会、共催：ESD-J	200名 以上
2月10日	地域	千葉	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト)	in 松戸を開催 主催：NPO 法人コミュニティ・ コーディネーターズ・タンク、共催：ESD-J	22名
2月14日	政策	埼玉	ESD 関東セミナー	ESD の実践事例の紹介や地域が活用できる ESD 促進施策を調査し、その結果を紹介	52名
2月15日	政策	東京	環境省 ESD 促進事業 経験交流ミーティング	全国事務局：ESD-J 環境省の ESD 促進事業 の開催地 10 カ所の担当者が集い、検討を続 けてきた事業内容、ESD を推進するときの課 題や工夫を共有	54名
2月18日	地域	大阪	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト)	in 貝塚を開催 主催：ESD かいづかネット ワーク準備会、共催：ESD-J	12名
2月24日	地域	岡山	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト) ステップ2	ESD・環境教育円卓会議を開催 主催：岡山 県民局・岡山ユネスコ協会、共催：ESD-J	100名
2月25日	地域	福岡	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト)	in 久留米を開催 主催：NPO 法人久留米地 球市民ボランティアの会、共催：ESD-J	22名

2月25日	地域	鹿児島	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト)	in 大野・垂水を開催 主催：鹿児島 ESD 協議会準備会、共催：ESD-J	55 名
3月10日	地域	埼玉	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト) ステップ 2	関東ブロックミーティングを開催 主催：関東圏持続可能な開発のための教育の 10 年推進ネットワーク (KEN)、共催：ESD-J	18 名
3月18日	地域	東京	ESD-J 全国ミーティング	全国から ESD の担い手や ESD に関心を寄せるさまざまな人たちが参加。パネルブース展示に、団体会員 28 団体が出展	130 名
3月25日	地域	東京	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト) ステップ 2	ESD-Hino シンポジウムを開催 主催 ESD-Hino、共催 ESD-J	30 名

ESD-J の運営・情報共有に関する活動一覧

2006 年

開催日	活動区分	事業名	内 容
4月16日	運営	ESD - J 事務所移転	
4月26日 ～5月22日	運営	ESD-J 理事選挙	25 名の立候補者より 15 名を選出。有権者数 186 のうち、投票数 109 (白票：1)、有効投票 109 (無効：0)、投票率 58.6%
5月28日	運営	2006 年度 第 1 回理事会	2005 年度の事業報告と決算、2006 年度の事業計画、2006 年度予算、推薦理事 (5 名) の選出などについて議論
6月15日	情報	ESD レポート第 8 号発行	特集「ESD の 10 年日本実施計画、あなたはこう読む？」のほか、環境省の ESD 支援事業の紹介など 発行：5,700 部
6月18日	運営	2006 年度 通常総会 2006 年度 第 2 回理事会	2005 年度事業・決算について報告。2006 年度事業計画および予算、定款の改定などが承認される。理事会では代表理事、副代表理事の選出、PT 体制の検討を行う
10月7日	運営	2006 年度 第 3 回理事会	地域で ESD の実践的な成果をあげることを重点課題とし、その成果を国際的な連携、政策提言へ反映させるという中期戦略のビジョンを議論
11月15日	情報	ESD レポート 9 号発行	誌面リニューアル。特集「〇〇教育からのメッセージ」のほか、「シリーズ学びの場をデザインする」がスタート。発行：5,700 部
12月17日	運営	2006 年度 第 4 回理事会	今年度事業の見通し、全国ミーティングの企画、来年度事業の方針などについて議論
12月20日	情報	ESD テキストブック発行	「わかる！ ESD テキストブック シリーズ 1 基本編 未来をつくる『人』を育てよう」を発行。初版 5,000 部印刷

2007 年

開催日	活動区分	事業名	内 容
1 月 15 日	情報	ESD レポート 10 号発行	特集「私と〇〇教育 ESD への大きなシナリオを描く」、「地域に学び、地域へ還す 富山高専学生・学校・地域の学びの連鎖」など掲載。発行：5,700 部
3 月 15 日	情報	ESD レポート 11 号発行	特集「分野を超えた共育の芽 ESD への小さなシナリオをつくる」や「暮らしを学びに～山村留学が子どもと村人を自立させる」などを掲載。発行：5,700 部
3 月 17 日	運営	2006 年度 第 5 回理事会	2007 年度の事業内容および、予算案について議論

ESD-J の講師派遣先一覧

2006 ～ 2007 年

依頼元	イベント名	開催日	場所	参加者数
環境パートナーシップオフィス	環境教育担当者研修	4 月 24 日	東京	30 名
環境省	環境教育担当者研修	4 月 25 日	東京	200 名
(社) 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会	消費者環境教育研修	8 月 21 日～23 日	千葉	35 名
文部科学省	環境教育指導者養成研修講座	9 月 26 日～29 日	福島	55 名
中国自然の友	ESD-China (ESD 中国民間協力ネットワーク) ワークショップ	11 月 4 日～6 日	中国・北京	100 名
環境省	環境省環境教育担当者研修	11 月 7 日	埼玉	120 名
広島大学付属高等学校	広島大学付属高等学校研究大会	11 月 11 日	広島	80 名
東北環境パートナーシップオフィス (東北 EPO)	東北 EPO 設立記念 ESD セミナー	11 月 15 日	岩手	25 名
大阪市教育委員会	人権教育担当者研修	11 月 28 日	大阪	10 名
文部科学省	環境教育指導者養成研修講座	11 月 15 日	広島	58 名
環境省、文部科学省	環境教育リーダー研修 基礎講座	12 月 1 日	高知	50 名
ふちのべ塾	ESD をさがみはらで学ぼう	12 月 20 日	神奈川	15 名
佐世保市	ESD 講演会	2 月 2 日	長崎	40 名
ユネスコ国内委員会	第 120 回日本ユネスコ国内委員会オープンフォーラム	2 月 28 日	東京	120 名
愛媛大学	環境 ESD シンポジウム	3 月 11 日～12 日	愛媛	80 名
群馬県・群馬大学	多文化地域のフィールドワーク	2 月 15 日	千葉	35 名

ESD-J の共催・協力・後援事業一覧

使用 名義	日 程	～迄	場所	事業名	参加者数	主催団体
共 催	6月14日(水)	6月15日(木)	仙台	アジア協力対話第3回環境教育推進対話	約150名	外務省、仙台広域圏RCE
	10月21日(土)		鳥取	日本環境教育学会第18回大会(鳥取) プレミーティング[鳥取で環境教育を語ろう]	26名	日本環境教育学会
	3月21日(水)		鹿児島	かごしま ESD フォーラム～ネイチャーゲーム・自然体験活動で子どもがかわる、大人がかわる、地域がかわる!～	84名	かごしま ESD フォーラム
協 力	7月14日(月)	7月24日(月)	東京 大阪等 7ヵ所	民衆演劇の手法で考える ESD アジア太平洋交流ワークショップ	のべ 163名	民衆演劇と ESD アジア太平洋ネットワーク・日本委員会
	4月21日(金)	12月31日(日)		言の葉さらさらプロジェクト	1368通	言の葉さらさらプロジェクト実行委員会
後 援	4月1日(土)	3月31日(土)	全国 8校	[ずっとと地球と生きる]学校プロジェクト(継続)	のべ 532名	(財)日本ユネスコ協会連盟 読売新聞社
	5月20日(土)	5月23日(火)	東京	ヘレナ・ノーバーク・ホッジ招聘シンポジウム 懐かしい未来へ～ヒマラヤ・ラダックに学ぶ持続可能な社会づくり	のべ 1300名	ヘレナさん招聘実行委員会
	6月24日(土)	6月25日(日)	岡山	中・四国環境教育ミーティング	31名	中・四国環境教育ネットワーク
	8月10日(木)	8月11日(金)	大阪	ESD&多文化教育のための教材作りに挑戦	25名	アジア・太平洋人権情報センター (ヒューライツ大阪)
	8月19日(土)	8月20日(日)	東京	第10回学校と地域の融合教育フォーラム 2006 in 東京	132名	学校と地域の融合教育研究会
	10月13日(金)	10月15日(日)	東京 2ヵ所	環境教育シンポジウム『すべてのこどもに体験から学ぶ環境教育を』～アメリカにおけるプロジェクト・ワイルドの最先端を学ぶ～	のべ 164名	(財)公園緑地管理財団
	11月3日(金)	11月4日(土)	東京	環境教育指導者養成アースエディケーションワークショップ	22名	NPO 当別エコロジカルコミュニティ
	3月7日(水)		大阪	近畿 ESD フォーラム	58名	近畿地方環境事務所、近畿環境パートナーシップオフィス
	3月17日(土)	3月18日(日)	京都	Beyond 自然教育～ ESD and How to teach it	のべ 55名	NPO 地球デザインスクール
	3月21日(水)		名古屋	未来をつくる教育と経済～持続可能な社会とは? ESD の可能性～	82名	環境省中部環境パートナーシップオフィス

ESD 関連の記事・論文など

分類	発行月日・執筆日	記事・論文名	執筆者 (順不同・敬省略)	掲載誌・提出先	編集	発行
新聞記事	2006年 5月9～26日	手と手と手：岡山発 国際貢献 地域で動く(13回シリーズ) ⇨ 188ページ	国際貢献取材班	山陽新聞	—	山陽新聞社
	2006年 5月17日	手と手と手：岡山発 国際貢献 人類社会維持へ行動！！ ⇨ 189ページ	国際貢献取材班	山陽新聞	—	山陽新聞社
	2006年 5月17日	四季録 教育の方向性 ⇨ 190ページ	竹内よし子	愛媛新聞	—	愛媛新聞社
	2006年 6月24日	四国方式 大学講座で人材育成	国際貢献取材班	山陽新聞	—	山陽新聞社
	2006年 7月16日	ずっと地球と生きる 学校プロジェクト 水は命	—	読売新聞	—	読売新聞社
	2006年 7月17日	ESD 推進協結成 一国連キャンペーン 実践	清水玲子	山陽新聞	—	山陽新聞社
	2006年 7月28日	ずっと地球と生きる 学校プロジェクト 温暖化知恵で防ぐ ⇨ 191ページ	—	読売新聞	—	読売新聞社
	2006年 9月5日	「銃を鋌へ」活動支援 循環型社会へ 井戸掘りも	加畑公一郎	朝日新聞	—	朝日新聞社
	2006年 10月14日	デスクノート つなぐ人	清水玲子	山陽新聞	—	山陽新聞社
	2006年 11月23日	持続可能な社会目指せ アフリカ支 援の愛媛 NPO 代表 講演で呼び掛け	清水玲子	山陽新聞	—	山陽新聞社
	2006年 11月26日	ずっと地球と生きる 学校プロジェクト 自然との共存、身近に実践	—	読売新聞	—	読売新聞社
	2007年 12月20日	ずっと地球と生きる 学校プロジェクト 「紙」宿る森、守ろう	—	読売新聞	—	読売新聞社
	2007年 2月10日	持続可能な開発のための教育 ⇨ 192ページ	—	聖教新聞	—	聖教新聞社
	2007年 2月14日	四季録 学びと実践	竹内よし子	愛媛新聞	—	愛媛新聞社
	2007年 2月17日	四季録 ESD	竹内よし子	愛媛新聞	—	愛媛新聞社
	2007年 2月17日	ずっと地球と生きる 学校プロジェクト 地球が悲鳴、省エネ誓う	—	読売新聞	—	読売新聞社
	2007年 3月7日	地域と市民の役割—誰もが土の人・ 風の人	高野孝子	朝日新聞新潟版	—	朝日新聞社
	2007年 3月9日	ずっと地球と生きる 学校プロジェクト 小さな努力、地球守るよ	—	読売新聞	—	読売新聞社
	2007年 3月16日	途上国知り一歩行動 小さくても継続が大切	竹内よし子	愛媛新聞	—	愛媛新聞社
	2007年 3月20日	UNDESD 環境教育計画 3年目 地域・学校で活動拡大	—	読売新聞	—	読売新聞社
	2007年 3月21日	浦佐裸押合大祭—地元の誇り地域の きずな	高野孝子	朝日新聞新潟版	—	朝日新聞社
雑誌	2006年 4月	ESD-J 全国ミーティング エコな世界 をつくるには、教育が大切	—	Earth Guardian	—	日報アイ・ビー
	2006年 9月	e- コミュニケーション Q&A テーマ 「ESD」 ⇨ 193ページ	村上千里	Earth Guardian	—	日報アイ・ビー
	2006年 11月	この人に聞く：原明子さん ⇨ 194～195ページ	美澄岸子 吉川恵子	プラザ vol.167	プラザ岡山 編集室	株式会社 オークシード
	2006年 10月	持続可能な「地域づくり」「人づくり」 に向けて —「国連・持続可能な開発 のための教育 (ESD) の 10 年」の総 合的研究中間報告	阿部治、田中治彦、 佐藤真久、小栗有 子、大島順子、降 旗信一 ほか	農村文化運動 182 号	(社) 農山漁村 文化協会	(社) 農山漁村 文化協会

分類	発行月日・執筆日	記事・論文名	執筆者 (順不同・敬省略)	掲載誌・提出先	編集	発行
雑誌	2007 年 1 月	学生たちが体験したたくさんの「つながり」	高野孝子	行動人	—	ジェック
	2007 年 3 月	豊かさを求めて	高野孝子	行動人	—	ジェック
	2007 年 3 月	必要なのは体験しながら学ぶ力～サスティナビリティの実現に向けた教育～	村上千里	環境会議	—	宣伝会議
書籍・報告書	2006 年 3 月	国連・持続可能な開発のための教育の 10 年 2005 年度事業報告書 えへやん・すごいやん・だいにいこか 泉北	—	—	—	世界人権宣言 泉北 3 市 1 町 連絡会
	2006 年 4 月	2005 年度東京学芸大学現代 GP「多摩川エコモーション」報告書	—	—	—	東京学芸大学 「多摩川エコモーション」事務局
	2006 年 6 月	スズメの少子化、カラスのいじめ	安西英明	—	ソフトバンク 新書	ソフトバンク クリエイティブ (株)
	2006 年 7 月	地球、そこが私の仕事場	大前純一	—	—	海象社
	2006 年 9 月	人権教育テキスト 人権教育を土台に すえた「持続可能な開発のための教育」(ESD) を三重県から	森 実	—	(財) 反差別・ 人権研究所みえ	三重県
	2006 年 10 月	地球体験チャレンジ: ヤップ島プログラム 2006 報告書	高野孝子ほか	—	NPO 法人 ECOPLUS	NPO 法人 ECOPLUS
	2006 年 11 月	平和の文化 8 つのキーワード	浅川和也ほか	—	平和の文化を きずく会	平和文化
	2006 年 12 月	わかる! ESD テキストブック シ リーズ 1 基本編 未来をつくる 『人』を育てよう	岩本泰ほか	—	ESD-J	ESD-J
	2007 年 1 月	持続可能な社会と市民の役割 海外実 習「ミクロネシア連邦ヤップ」	高野孝子ほか	—	NPO 法人 ECOPLUS	早稲田大学オー プン教育センター設 置科目「持続可能 な社会と市民の役 割」受講生一同
	2007 年 2 月	小学校の授業に生きるネイチャー ゲーム スタート編	(社) 日本ネイ チャーゲーム協 会・体験型環境 教育研究会	—	(社) 日本ネイ チャーゲーム協 会・体験型環境 教育研究会	(株) ネイチャー ゲーム研究所
	2007 年 2 月	「地域に根ざした教育」を考える～ アラスカ先住民族の自然観をもとに ～ 報告書	—	—	村橋真理	NPO 法人 ECOPLUS
	2007 年 2 月	ESD 銀河リポート No.1	—	—	—	岩手大学 ESD 推 進委員会
	2007 年 3 月	ESD 銀河リポート No.2	—	—	—	岩手大学 ESD 推 進委員会
	2007 年 3 月	持続可能性に向けた教師教育の新た な方向づけ ーガイドライン及び提言ー	—	—	国立教育政策研 究所 国際研究・ 協力部 監訳	(株) 芳文社
	2007 年 3 月	人権学習の手引き ーハートバリアフリー宣言	—	—	大阪市教育委員 会	大阪市教育委員 会
	2007 年 3 月	学校に森をつくろう! ー子どもと地 域と地球をつなぐホリスティック教 育ー	—	—	日本ホリスティッ ク教育協会、今 井重孝、佐川通	せせらぎ出版
	2007 年 3 月	未来へのまなざし アジア太平洋 持続 可能な開発のための教育 (ESD) の 10 年	—	—	株式会社 クバプロ	財団法人 ユネス コ・アジア文化 センター

分類	発行月日・執筆日	記事・論文名	執筆者 (順不同・敬省略)	掲載誌・提出先	編集	発行
書籍・報告書	2007 年 3 月	Tales of Hope - Grassroots Activities of Education for Sustainable Development (ESD) in Asia and the Pacific	—	—	Asia/Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU)	Asia/Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU)
	2007 年 3 月	It's Our Only PLANET! Education for Sustainable Development through PLANET in Asia and the Pacific	—	—	Asia/Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU)	Asia/Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU)
	2007 年 3 月	Inamura no Hi - TSUNAMI RESCUE! The true story of Hamaguchi Goryo The Man Who Saved His Village From a Tsunami	—	—	Asia/Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU)	Asia/Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU)
ニュースレター	2006 年 5 月	「国連・持続可能な開発のための教育の 10 年」にむけて	—	ダッシュレター 67 号	—	NPO 法人 DASH
	2006 年 7 月	「未来をつくる教育」をつくる (3) — 持続可能な開発のための教育 (ESD) 推進の基盤整備—	村上千里	環境教育ニュースレター 74 号	日本環境教育学会	日本環境教育学会
	2006 年 7 月	実践 ESD ! in 小豆島	—	わくわくニュースレター	—	NPO 法人 えひめグローバルネットワーク
	2006 年 9 月	特集「持続可能な開発のための教育の 10 年」	—	地球環境基金便り No.23	—	(独) 環境再生保全機構 地球環境基金
	2006 年 11 月	持続可能な開発と大気汚染公害 ～地域再生にむけた ESD の課題	林美帆	国際人権ひろば 70 号	—	ヒューライツ大阪
	2006 年 11 月	特集・「持続可能な開発と人権—東南アジアの現実から考える」	—			
	2007 年 1 月	「未来をつくる教育」をつくる (4) 地域で進める ESD —「ESD とよなか」の取り組みから—	井上和彦	環境教育ニュースレター 76 号	日本環境教育学会	日本環境教育学会
	2007 年 3 月	ESD の取り組み「気づき・学び・実践」	—	わくわくニュースレター	—	NPO 法人 えひめグローバルネットワーク
	2007 年 3 月	遺伝子組み換え作物から ESD を考える	岸上知三	国際人権ひろば 72 号	—	ヒューライツ大阪
	2007 年 3 月	国連「持続可能な開発のための教育 (ESD)」取り組みの強化を。	阿部治	自然保護 2007 年 3/4 月号 (No.496)	(財) 日本自然保護協会	(財) 日本自然保護協会
	2007 年 3 月	アラスカ先住民招へいプロジェクト: 「地域に根ざした教育」を考える	高野孝子	COLUMNS Vol.3 3/4	—	国際交流基金 日米センター
論文	2006 年 3 月	自然体験学習の思想— experience の理解を軸に—	降旗信一	人間と社会 16 号	東京農工大学「人間と社会」研究会	東京農工大学
	2006 年 4 月	地域とつながる環境ボランティア	高野孝子	環境ボランティア	岩井雪乃	WAVOC
	2006 年 4 月	1. キャンプにおける環境教育の進め方、2. キャンプにおける環境教育の進め方の実際	高野孝子	キャンプディレクター必携	(社) 日本キャンプ協会指導者養成委員会	(社) 日本キャンプ協会
	2006 年 8 月	英国・エジンバラの暮らしと 環境政策	高野孝子	早稲田大学学報 1160 号	早稲田大学報編集室	早稲田大学校友会
	2006 年 9 月	「持続可能な開発のための教育の 10 年」を視野に入れた森林体験学習による環境教育について	關隆晴、三嶋宏、中辻清泰、生田享介、石川聡子、岡崎純子、野田文子、森実	大阪教育大学紀要 第 V 部門 第 55 巻 1 号	大阪教育大学	大阪教育大学
	2007 年 3 月	学習で見つけた「持続可能性」へのヒント	高野孝子	オープン教育センターの授業	—	早稲田大学

ESD 関連の記事 (抜粋)

岡山発 国際貢献

会議は英語をベースに同時通訳で進み、「持続可能な社会を築くために」というフレーズが飛び交った。

イタリアのフィレンツェ大学教授パオロ・オリフィスはこう続けた。「大事なものは地球規模のヒューマニズム、つまり多様な文化と民族の人権を尊重する人間性。この人間性を持つ人を育てる戦略が必要なのだ」

昨年十月、岡山県国際交流センター（岡山市奉還町）で開催された国際会議のテーマは「持続可能な開発のための教育」(ESD＝Education for Sustainable Development)。

海外八カ国と日本の大学や国連機関、NGO（非政府機関）などが参加。岡山の中学生の活動発表を交えた議論は

拐点化

サ
ミ
ツ
ト

薄い言葉が、国連は「要視し、二〇〇五年一月、推進キヤンペーン「ESDの十年」」をスタートさせた。徐々に定着が図られたつつあるが、岡山は先進的な取り組みで知られ、国際会議もこれが初めてではない。

「第九回おわがやま国際貢献NGOサミット」。ユネスコ本部からESD専門官を招き、各国のNGOリ

ダラらが、人権保護、貧困削減、環境保全などの観点から、世界が一体となってESDに取り組むことを誓った。第十回サミット（〇四年）では、ESDの「四原則」を議論した。

「西のジュネーブ、東の岡山」。岡山のサミットはこのキャッチフレーズを掲げ、一九九四年から始まっている。

国際医療ボランティアAMDA(岡山市椿津)の菅波茂代表の呼び掛けに、県内のNGOや企業、大学、自治体などが呼応。国連の人道援助機関が集中するジュネーブに対し、岡山は地域で活動するローカルNGOの拠点を目指そうと、市民レベルの国際貢献の推進を世界へアピールした。

實踐段階

そして、昨年六月、岡山市は国連大学から「ESDの地域拠点（RCE）」に認定されたのだ。

ESDは、持続可能な社会を目指す教育活動であり、環境や平和、福祉など幅広い。岡山では環境や国際理解をめぐる活動が地域やNGOによって始まり、先進地らしく実践段階に入っている。

ご意見をお寄せください。〒700-8734、山陽新聞「国際貢献取材班」。ファクス(086-245-5296)、メール(kokusai@sanvo.oni.co.jp)。

ESD先進地の責任



国際会議でESDの活動を発表する岡山市の中高生ら＝昨年10月

て海外参加者は延べ百七
十カ国約三百人に上る。
の間、海外のNGOとのネ
ットワークが構築され、E
SDでは、国連キャンペーン
を先取り。〇四年春には、
都道府県で初の岡山県国際
貢献条例が制定され、その
秋にNPO法人岡山県国際
団体協議会（COINN）
が発足。国際貢献の地盤は
着々と固められた。

サミットを引き継いで毎年、ESDの国際会議を主催するCOINNの理事長・青山勲氏は「世界のローカルNGOをリードしてきた責任がある」と語る。岡山大学で有害化学物質の生態系への影響を研究。「環境問題への解決には市民運動が不可欠」との思いから、NGOにも参加している。

第⑥部 地域で動く ①

年間で約二十億円
の筆にESDを導入

説教しないで行動せよ

の十年（二〇〇五年）
を推進する地域拠点（RCE）
の世界会議で再会し、タイの
シアエ工科大学教授マリオ・タ
アキヤノンは笑顔で語った。
フランクフルトの放送大学で職員シヨ
オランダの放送大学で職員シヨ
セフ・ライカールも「若者は育
SDの重要な主体。若者を育
てている岡山はずばらしい」
と興味深げだった。

する予算は本年度五百億円で、前年より約三十億円の増。大学改革にESDを導入

第6巻
担当しました。

清水玲子か

地域で動く ⑬

...ル (kokusai)

2006 年 5 月 17 日 愛媛新聞

変 変 変 変

2006 年 (平成 18 年) 5 月 17 日 水曜日

四季録

文化

CULTURE

最近、中学校の教科書に
誤字があることが分かった
と報道された。指摘の「印
刷前の校正段階でもっと注
意が必要」とは当たり前の
こと。ここでは議論をそ
の点のみに集中しないでほ
しい。というのも、世界に
は、教材さえ、子どもたち
に十分行き渡らない国があ
るからだ。

一方、毎年変更される
日本の教科書、そして、森
林伐採・環境保護・地球温
暖化など一のことを並べ
ると、浮かび上がるキーウ
ードがある。それは「持続
可能性」という言葉だ。
私がこの言葉と直接向き
合つたのは、二
〇〇五年一月から始まった
国連のキャンペーン「持続
可能な開発のための教育の
十年 (ESD= Educa

tion for Sus
tainable Dev
elopment)」を知
つてからだ。
話の発端は一九九二年の
リオデジャネイロサミッ
ト。ここで「持続可能な開
発」推進のための目標も作
成された。しかし、その後
十年間で成果は上がらず、



現代はまだまだ「持続」
不可能なことが多い。この
点を踏まえて理解し、課題の
解決・改善に向けて実践的
に取り組んでいける教育を
受けさせることで、温暖化
に象徴される深刻な環境問
題、貧富の格差、社会的に
公正の拡大を食い止めてい
かなければ...と思う。
課題を解決するために重
要なのは、環境・福祉・人
権・平和・国際理解といっ
た個別のテーマを横断し、
政府・自治体・学校・地域
・NGO・NPOなどが有
機的につなげること。その
上で、持続可能な開発に向
けた取り組みを教育の視点
からつないでいかなければ
ならないと思う。
(竹内よし子・えひめクロ
ーバルネットワーク代表)

校址は臨海地帯である。すぐ北に太平洋が望み、校舎はロビンエツの形模様が、13の西貝、愛知市北三屋市の市立愛知小学校（伊勢湾開港場）校址であった。国連・特設司書館開校のため、この教育の年（1945）と（1946）の二回、今回二重・地味からさび・つゆよとをテーマに、5年分は、昨年もと、月には、愛知・臨海地帯に、愛知・地味・つゆよと、愛知・臨海地帯の取り組や、地味・臨海地帯を演じて来た。

「気候変動」に関する政府間パネル（IPCC）の第3次報告書（2007年）で、20世紀中の地上の平均気温は約0.6度、海面水位は約10～20センチ上昇した。1980～2000年の地上気温は、4～5.8度、平均海面水位は9～88センチ上昇する予測が出てい

UNOED 2005-2014

ずっと地球と生き

カンボジアの風呂敷
を贈る子どもたち

海面水位88センチ、
気温5.8度上昇

[illegible]

カンボジアの民芸品を見せ、アジアの環境問題などを話す日本ユネスコ協会連盟の展示館内。

を覗きこんで、其の奥を覗きこんで、
いらんぞ、イヤな事を考へて
「ほし」と呼びかける。
授業を受けた相澤大君
(10歳)「僕たち大人に
なると、地球の温度が
30度上がるのかもしれない
けれど、次で世の中のもの
ながかわるぞ。」この
分別と、クローラーを使わ
ないのが、小エネコでも
無い。い、またい、真剣な
素情が溢れた。

◇

13日、日本エネコ協

[illegible]

環境省は、地域に根ざしたUNDESD活動のモデルとなる事業を募集する。採択事業が核となり、全国に活動が普及するのを目指したもので、応募対象は公益法人、NPO、企業など。

環境省は、地域に根ざしたUNDESD活動のモデルとなる事業を募集する。採択事業が核となり、全国に活動が普及するのを目指したもので、応募対象は公益法人、NPO、企業など。

地域のUNDES D活動を推進できる団体。
今年度は10団体程度を採択し、それぞれ上席
150万円まで、来年度はこの中から4団体を選
び各400万円程度支援する。申請締め切りは8
月末。詳細は (www.env.go.jp/policy/edu/)。
問い合わせは、環境省総合環境政策局の環境
教育推進室(電話03・3581・3351)まで。

United Nations	Decade	of	Education	for	Sustainable	Development
こくさいれんごう	10ねん		きょういく		じぞくかろうな	かいはつ

いま地球上では、環境問題だけでなく、貧困や人権、戦争などさまざまな問題が生まれています。これらに先回りすると、未来に健全な地球の姿を築くことができます。次の世代にわたる人々にわたる責任をかけてしまう恐れがあります。そうならないために、この地球を世界中が一つになって守り、将来にわたって望ましい発展を遂げるよう継続的に努力していく社会、これが「持続可能な社会」と言えます。

昨年からはじまったUNDESD（国連・持続可能な開発のための教育の10年）とは、「持続可能な社会」を作るために、さまざまな問題に向き合い解決していく力をはぐくむ教育を10年かけて実施していくことが目的と取り組む。これは、2002年9月に南アフリカで開かれた「ヨハネスブルグ・サミット」で日本政府が提議し、その年の12月、国連総会で採択された世界に宣言されたこと、UNDESDが中心となって進んでいる。

UNESDを日本で広げていくために、「ずっと地球と生きる 学校プロジェクト」がスタートしています。これは小学校の「総合的な学習の時間」に、企業や日本ユネスコ協会連盟の
 職員が圍繞を導入テーマとして授業を行うもの。

温暖化のもたらす影響をはじめ地球規模で起きているさまざまな問題や、今後の発展のあり方について学び、「持続可能な社会」を実現するためにはどうすればよいのか、自発的に考え行動するきっかけを提供するのが目的です。

主催：(社)日本ユネスコ協会連盟 読売新聞社
後援：外務省、国連教育、文化科学省、日本ユネスコ国内委員会/特別協力：国際連合広報センター、持続可能な開発のための教育の10年推進会議（ESD-J）/協賛：(財)2005年日本国際博覧会協会

主催：(社)日本ユネスコ協会連盟 読売新聞社
後援：外務省、国連教育、文化科学省、日本ユネスコ国内委員会/特別協力：国際連合広報センター、持続可能な開発のための教育の10年推進会議（ESD-J）/協賛：(財)2005年日本国際博覧会協会

愛・地球博の基本理念は将来に向かって、
世界を視野に継承発展されていきます。



モリゾー キッコロ

(財)2005年日本国際博覧会協会(承継予定法人:(財)地球産業文化研究所)

59 2006 SEPTEMBER

ESDは、持続可能な社会づくり
に参画する「人」や「人と人とのつ
ながり」を、地域全体で共に育む活
動であり、学校だけでなく、地域や
社会のあらゆる場でも取り組む
べき学習である。

また、各地域や個人の実情に合
わせた形で進めることが大切。す
べての地域でプロジェクトを立ち上げ

の交通状況、大量消費・破壊の問題
を見つめ直し、世界の問題への関心
を育てている。

高校生の活躍が地域の経済発展に
結びついた例として鹿児島県串良町
の「イモづくりから始まった村おこ
し」がある。高校生たち12人がカラ
イモ栽培に取り組み、その収益を地

A 一人ひとりが持続可能な地域づくりへ具体的に考え、話し合い、行動しながら、学んでいる。

Q 具体的にはどんなことをするのですか？

教育というと、学校や研修セミナー等を
想像しがちだが、

地域に根ざしたESDの企画を公募

環境省は、平成18年度「国連持続可能な開発のための教育の10年促進事業」を実施する地域を募集している。事業終了後も当該地域でのESD活動を継続する仕組みを生み出し、プロセスと成果を公表する。対象は、社会教育施設、大学、社会福祉協議会、公益法人、NPO法人、市民活動サポートセンターなど。

詳細はホームページから。
<http://www.env.go.jp/policy/edu/>

今月のテーマ エトセトラ

E-コミュニケーション communication Q&A

今月のテーマ

ESD

ESDとは「持続可能な開発のための教育」のこと。
2005年から2014年までの10年間、国連のキャンペーンとして行われている。

答えてくれたのは
特定非営利活動法人
「持続可能な開発のための教育の10年」
推進会議 事務局長
村上千里さん
1992年環境NGOに転職し、
1995年から「地球環境パートナーシップ」にNGOとして参画。
1998年からフリーとして
独立し、2003年から現職。

現代に生きるわたしたちは、環境
破壊や、人権侵害、貧富の格差など、
互いにつながりあう様々な課題に直
面している。
中でも、大量生産・大量消費を中
心に据えた従来型の「開発」は、物
質的な豊かさをもたらした反面、環
境を悪化させ、資源を乱用して自然
界の秩序を乱したうえ、地域社会の
荒廃や他の地域の貧困化を推し進め
るなど、人権・社会面からも深刻な
問題を引き起こしている。
このような状況を打破し、将来世
代を含む世界中の人々が、仲良く安
心して暮らすことのできる社会をつ
くるためには、環境、経済、社会の
各方面から公正で、バランスのとれ
た新しい「開発」が求められている。
これが「持続可能な開発」と呼ばれ
るものである。
民主的で誰もが参加できる社会
制度や、社会や環境への影響を考慮

した経済制度の保障があり、個々の
文化の独自性を尊重しながら、各人
の健康の増進、自然資源の維持、災
害の防止、貧困の軽減、企業責任の
促進などにより、公正で豊かな未来
を創る営みともいえる。
しかし、この「持続可能な開発」
により、全ての人が安心して暮ら
せる未来を実現するには、わたした
ち一人ひとりが協力し合いながら、
課題に取り組む行動が大切。そのた
めに必要な力や考え方を人々が学び、
自分のものとしていくことが重要で、
それが「持続可能な開発のための教
育」ESD（イー・エス・ディー）
である。

A 環境、経済、社会の各方面で
バランスのとれた新しい開発と、そのための教育。

Q 「ESD」って何ですか？

「持続可能な開発のための教育」を表す英語の頭文字がESD。
まず、「持続可能な開発」から聞いてみよう。

2006年11月 プラザVOL.167

21世紀 岡山の100人

大切なのは、まず『知る』こと。そして、いろんな立場の人が『手を繋ぎ行動を変える』こと。そこから未来が変わっていく。



岡山はESDに関する地域の拠点に認定されているそうだが、どうしてなんですか？

「岡山は以前から市民の自主的な環境作り活動が盛んなところだったんです。町内会やボランティアグループが、里山とか、川や児島湖や公園など不法投棄された所をきれいに整備したりという。それで、岡山では2001年から『環境パートナーシップ事業』という、環境保全活動をしている団体を繋ぐという事業を始めたんです。その事業では、交流会を開催したり、『コースター』という誌面で様々な団体の活動を紹介したりするんですが、それで3万人以上の方が参加するという成果を出したんです。そこでその実績をもとに、岡山は『世界でもこういうやり方でやいませんか？』と世界に提案して、それが認められたというわけなんです。それ以外にも、岡山は国際交流団体とか、国際協力団体がすごく多いところというところもありますし、公民館活動での生涯学習が盛んです。そういうことが素地にあつて岡山が国連大学から『ESDに関する地域の拠点』として認定されたんですね」

ESDの特徴とは？

「だいたい何でもそうなんですけど、みんな縦割りでしょう？ 自分のかみで手一杯で他の団体が何をやっていても知らない、一緒に手を繋いで何かをやろうという余裕もない、結局自分のところだけで終わってしまっているんですよ。でも、それじゃあ結局地球の問題は解決できないでしょう？ 『他の国のことは知らんじやダメだ』、その国の人が何で困っているのかということを含んで知恵を出し合って協力して解決していかないとけない。だから、ESDは非常にみんなの協力が求められる仕事です。日本など先進国がたくさん出す二酸化炭素が温暖化や気候変動の原因となつて途上国の貧しい人を苦しめている。目に見えないけれどそういうことを認識して行動を変えていかないとけないんです。とても多面的な教育活動だと思います。単に頭で理解しただけでは本当にわかつたとはいえないですよ。でも私たちが行動を変えていかないと未来は変わっていくんです。そういう意味でも、『実際の活動を通してまた新しい学びを作っていく』ということが求められている教育でもあるんです。」

大切な人との『つながり』

どのような写真展なんですか？

「この写真展は、オリンパス(株)が企画制作したもので、2002年のある1日、アフリカ大陸53カ国に世界的に著名な100人の写真家が散らばつて、人々の暮らしや自然や文化を撮影したものです。そこには豊かな自然と人々の暮らし、そして厳しい状況の中でも努力しているアフリカの人々の姿がとらえられています。」

そこで何を伝えよう？

「アフリカに関する情報は日本ではとても限られているので、アフリカのことを私たちの茶の間の話題になることは少ないです。アフリカに限らず地球のどこで何が起きて、表面的には私たちの毎日はとてつないだり同じように過ぎていくし、でも、気候変動でたびたび干ばつが起きると、多くの人が農地や牧草地などの生活手段を失い食っていきにくくなり、仕事を求めて都市に出ていくけれど、たいていの場合スラムで貧しい暮らしを余儀なくされます。そうすると、衛生状態の悪い中で子ども達は学校にもなかなか行けず、いつも病気の危険にさらされながらくらすしかねない。本来の生活の場を捨てなければならなかったのは彼らのせいもあるんです。」

関係ないですか？ 私たちのくらしは本当に無関係なんでしょうか？

「ええ、関係ないではないですよ。だから、まずは『もつと知ろうよ』と。貧困や紛争といったネガティブなイメージのアフリカではなく、素晴らしいアフリカとそこにくらす人々の姿を。」

この写真展の開催にあたっては、朝日本三セフ協会岡山県支部や岡山市だけでなく、大変多くの組織や団体、ボランティアの人々が力を合わせています。それは、同じ地球に住む人間どうし、よりよい社会をつくっていくためにまず理解しあおうという目的に賛同した人たちがたくさんいるということなんです。」

今までの経済発展を優先した社会では、効率の悪いことは切り捨ててきた面があります。そういってことを振り返って、お互いのために何かできないか、というたことをもう一度考え直していく、契機になるといいなあと感じています。だから、これからの人となつたがてら、いこうと、世界規模でものを考えていったりとか、様々な問題を身近に考えてもらえようようにしていきたいですね」

今後の抱負をお聞かせ下さい。

「ESDは、国連が10年のキャンペーンとして力を入れている取り組みで、最初、拠点として世界で7カ所が認定されたんです。で、その一つが岡山でして、去年の4月に始まったばかりの新しい取り組みなんです。でも、この動きはこれから10年かけてあらゆる人々に広げていかなければいけない。そうしないと、私たちの子どもや孫の世代には地球がどうなっているかわからない。今の社会は、どこかで全部つながっているんだから。そのために、岡山は『トップランナー』として市民団体、事業者、学校、メディア、いろいろな人となつたがてら、活動の輪を広げていきたいと思います」

取材：プラザ編集室 ●美澄子 市川聖子

原 明子さん

東京生まれの岡山育ち

お生まれは東京ですね。

「一家が菓子屋で父はその四代目なんですけど、私が生まれた頃、父は東京の銀行に勤めていたんです。父があとを継がなければならぬ状況になって帰ってきて：それが、ちょうど私が1歳の時。だから、私も一応『東京生まれ』というわけで(笑)。けど、育ちはずっと岡山です」

「東京大学では、さぞかし勉強
 してたんでしょね。」

限りです(笑)。ただ、根が素直だったの
 限りで、中学校までは授業だけではしらない
 聞いていました。でも基本的には長女
 のんびりしてるし、高校でもあまり勉
 強しなかった。で、初年度は受けた大学
 を全部落ちて浪人しました。大学も何か
 の志があてていたわけではなく、親がカツ
 コいぞというのでポート部に入りました
 が、そこは入ってみると男ばかり1500
 人の世界でした。3ヶ月間授業中は寝
 て放課後の過酷な練習に耐えましたが
 とうとう身体がダウして退部!その後
 は勉強ももうわからなくなってるし、や
 りたいことも見つからず、フラフラしてい
 ました。

誰かの役に立ちたい！

で、卒業後は？

就職活動の時期に入っても、大企業業

や銀行などに行きたいという積極的な気持ちがあとも起こらず、結局、卒業後は実家に戻って家業を手伝ったんです。ちょうど瀬戸大橋ができた頃で、商品開

発の仕事をしていました。当時はパブルの頃でしたから、次々と新しい商品を作りましたね。仕事は楽しかったですし、そのうち東京からお菓子関係の商品開発している会社からのお願いがあつて、東京で働いていたのですが、ある時些細なことでいやになって突然辞めてしまいました。

それで改めて「私の人生って何一つ続かないなあ」とため息をつき、「私がいやにならずに続けられる」とつてあるのかなあ。私は一体何が好きなんだろう。子どもの頃からずっと変わらずに好きだったことであるかなあ？」と考えてみたんです。



原明子氏 プロフィール

HARA MEIKO
1962年 東京生まれ
1983年 岡山市に移る
1986年 東京大学文学部国文学専修課程卒業
卒業後の就職先で商品開発を担当
1991年 財日本ユニセフ協会勤務
子ども向け広報と教育事業を担当
2000年 財日本ユニセフ協会岡山県支部の運営委員
となり各方面への出前調査等を通して啓蒙に
努める
2004年 財ユニセフ協会岡山県支部事務局長に就任
2005年 岡山市役所の持続可能な開発のための教育
(ESD)担当の職に就き、現在に至る

「ユゼフの活動もその頃から?」
「はい。たまたま新聞の求人欄で劇団本三セフ協会が職員を募集しているのを見つけて、「これは!」と思って応募して行ってみました。50人ぐらゐ来ていたんですが、何と男ばかり! しかも、みんな仕事ができそうなスーツ姿。試験と面接を受けたものの半分諦め気分だったんですが、2人採用のうちひとりに選ばれたんです。」
後で聞いたら、求人は「男子採用の欄」にあったらしくて……とうりで男性ばかりのはずですよ(笑)。本当におつちよこ

——ユニセフの活動もその頃から？

お金を儲けるとかではなくて、誰かのお役に立っていると実感できることがうれしかったんですね」

セフの活動と世界の子どもの達状況を広く県民の皆さんにお知らせして協力の方を輪を広げるのが仕事です。

ただ三セフの活動は「国連の三セフの支援をする」というのが主ですから、そのくくりのなかでしか活動できないというのにはあるんです。例えば 9・11 の事件が起きた後に「戦争を止めたい」と思っただけで三セフの活動のくくりの中では政治的なことはできないのです。それで徐々に、「もっと世界がよくなるための活動を三セフ以外でもやっていきたい」という気持ちがあるなかで、同じ志の三セフの仲間と「スマイルオントップ」ネットワークという会を作って、色々な市民活動を計画していきました」

ユニセフからESDへ

なぜ、ESDの活動に？

「ボランティアや市民活動はやりがいがあるけれども、それだけではやっていけないので、どうやったらやりがいがあるか、どうやってやるか、ということに食いつけるか」というのが今も私の課題なのですが、そんなとき偶然、市役所が発行している『市民のひろば』の求人欄に「E・S・D担当職員募集」というのを見つけたんです。そもそも、E・S・Dというのは、「持続可能な開発のための教育」という意味で、行き過ぎた開発のためにどんどん地球温暖化が進んだり、開発のために貧しい人々が苦しんだりしているというところを見直して、将来人々が自然と共生できる持続可能な社会を達成するための教育なんです。私自身、E・S・Dがそういうものだと知っていましたが、環境に関する専門性という点では全く自信がなかったのですが、とりあえずダメでも応募してみたんです。そうしたら、ありがたいことに受かったちゃって。で、去年の9月からこの仕事をするようになったわけです」

2005 年度決算報告書 (2005 年 4 月 1 日～2006 年 3 月 31 日)

収支計算書 2005 年 4 月 1 日～2006 年 3 月 31 日

単位：円

I 収入の部	2005 年度実績	2005 年度予算	実績－予算
1 会費収入	2,719,000	3,200,000	-481,000
正会員 会費収入 (200 口)	2,020,000	2,000,000	20,000
準会員 会費収入 (150 人)	399,000	450,000	-51,000
賛助会員 会費収入 (15 口)	300,000	750,000	-450,000
2 事業収入	12,925,912	12,100,000	825,912
書籍販売等	118,780	800,000	-681,220
環境省	5,250,000	5,000,000	250,000
環境 NGO と市民の集い	5,690,000	5,000,000	690,000
博覧会協会	1,339,132	1,300,000	39,132
岡山市 ESD 研修	200,000	0	200,000
全国ミーティング会費	256,000	0	256,000
国際シンポ会費	72,000	0	72,000
3 補助金等収入	11,478,000	14,279,000	-2,801,000
地球環境基金収入	8,500,000	8,501,000	-1,000
国際交流基金	1,978,000	1,978,000	0
その他助成金	0	2,000,000	-2,000,000
協賛金収入 (キックオフブック)	1,000,000	1,800,000	-800,000
4 寄付金収入	746,610	600,000	146,610
寄付金収入	746,610	600,000	146,610
5 雑収入	51	0	51
受取利息	51	0	51
6 借入金収入	200,000	7,000,000	-6,800,000
短期借入金収入	200,000	7,000,000	-6,800,000
7 その他の収入	646,986	0	646,986
活動報告書頒布	170,600	0	170,600
雑収入	451,386	0	451,386
棚卸資産売却収入	25,000	0	25,000
当期収入合計 (A)	28,716,559	37,179,000	
前期繰越収支差額	5,762,509	5,762,509	
前期繰越収支差額調整額	0		
収入合計 (B)	34,479,068	42,941,509	

II 支出の部	2005 年度実績	2005 年度予算	実績－予算
1 事業費*	24,891,053	21,637,000	3,254,053
情報提供事業	5,219,742	5,224,000	-4,258
研修・普及啓発事業	1,922,147	850,000	1,072,147
政策提言事業	6,508,787	3,925,000	2,583,787
地域ネットワーク事業	3,205,000	4,910,000	-1,705,000
国際ネットワーク事業	2,704,067	2,728,000	-23,933
その他事業	5,331,310	4,000,000	1,331,310
2 管理費	5,220,288	10,177,500	-4,957,212
人件費	3,033,179	7,080,000	-4,046,821
会議費	14,041	60,000	-45,959
交際費	3,570	0	3,570
都内旅費交通費	491,627	480,000	11,627
理事会等旅費交通費	0	1,200,000	-1,200,000
通信運搬費	598,744	700,000	-101,256
消耗什器備品費	185,200	100,000	85,200
消耗品費	210,847	200,000	10,847
賃借料	240,000	240,000	0
保険料	41,500	10,000	31,500
支払手数料	55,876	50,000	5,876
租税公課	19,204	5,000	14,204
支払利息	0	52,500	-52,500
税理士報酬	315,000	0	315,000
雑費	11,500	0	11,500
3 固定資産取得支出	0	0	0
什器備品購入支出	0	0	0
4 借入金返済支出	500,000	7,000,000	-6,500,000
短期借入金返済支出	500,000	7,000,000	-6,500,000
5 その他の支出	0	1,000,000	-1,000,000
予備費	0	1,000,000	-1,000,000
当期支出合計 (C)	30,611,341	39,814,500	
当期収支差額 (A)－(C)	-1,894,782	-2,635,500	
次期繰越収支差額 (B)－(C)	3,867,727	3,127,009	

*うち、事業人件費 4,432,921 円

・今期の決算より、人件費を事業費と管理費に分けて報告することとした(予算はすべての人件費が管理費として計上されている)。
・収支は赤字となっているが、これは小冊子作成のための助成金 220 万円が昨年の収入となっているためである。

貸借対照表 平成 18 年 3 月 31 日現在

単位：円

科 目		金 額	
Ⅰ 資産の部			
1 流動資産			
現金	65,894		
普通預金	8,419,704		
未収会費	283,000		
未収金	9,310,000		
当座資産（資金）計		18,078,598	
たな卸資産	229,308	229,308	
2 有形固定資産			
什器備品	100,675	100,675	
3 その他固定資産			
出資金	45,000	45,000	
資産合計			18,453,581
Ⅱ 負債の部			
1 流動負債			
未払金	5,139,079		
前受金	9,006,412		
預り金	65,380		
資金計		14,210,871	
短期借入金	1,300,000	1,300,000	
負債合計			15,510,871
Ⅲ 正味財産の部			
正味財産			2,942,710
（うち当期正味財産増加額）			-1,441,684
負債及び正味財産合計			18,453,581

財産目録 平成 18 年 3 月 31 日現在

単位：円

科 目		金 額	
Ⅰ 資産の部			
1	流動資産		
	現金		
	現金手元有高	65,894	
	普通預金		
	三菱東京 UFJ 銀行新宿通支店	6,121,174	
	郵便振替口座 新宿明治通支店	2,255,610	
	郵便振替口座 広尾支店	42,920	
	現金過不足		
	未収会費		
	正会員	220,000	
	準会員	63,000	
	賛助会員	0	
	未収金	9,310,000	
	棚卸資産		
	期末棚卸高（書籍在庫）	229,308	
	流動資産合計		18,307,906
2	有形固定資産		
	パソコン	100,675	100,675
3	その他固定資産		
	未来バンク出資金	45,000	45,000
	資産合計		18,453,581
Ⅱ 負債の部			
1	流動負債		
	未払金	5,139,079	
	前受金	9,006,412	
	預り金		
	源泉所得税	65,380	
	短期借入金	1,300,000	
	流動負債合計		15,510,871
	負債合計		15,510,871
	正味財産		2,942,710

ESD-J 2006 年度事業計画

<2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日>

I. 方針

ESD-J は、政府・地方自治体・企業・教育関連機関に対して対等な立場で政策提言および協働・連携による活動を行うことにより、持続可能な社会の実現に向けた教育（ESD）の推進に寄与することを目地的として設立された、NGO・NPO・個人によるネットワーク組織である。ESD の内容に関しては、環境教育や開発教育、人権教育、平和教育など、これまで多くのノウハウが蓄積されてきているが、ESD はこれらの教育活動がより有機的につながりながら、さまざまな学びの場に広がり、持続可能な地域づくり、社会づくりに発展していくことで実現できるだろう。そしてそのためには、国際レベルおよび国レベル、地域レベルで、人と人をつなぎ、活動と学びをつなぎ、実践と制度をつないでいく「しくみづくり」が重要である。ESD-J は「ESD の 10 年」で、そのしくみをさまざまな関係者とともに模索し、実現することをめざしている。

設立年である 2003 年度から 2005 年度にかけての三年間は、ESD を推進するための基盤整備を行う期間と位置づけ、民間レベルでの ESD に関する情報発信の基盤と、国内外の担い手のネットワーク構築に取り組んできた。また、政府に対しては ESD 推進体制の構築と実施計画の策定に関する政策提言を行ってきた。一方政府レベルでも 2005 年度までは準備段階であったといえる。2006 年 3 月に「わが国における ESD の 10 年実施計画」が確定し、今後行政機関・自治体などに ESD の認知・認識が高まることが期待できるようになった。このような背景から、2006 年度は官民双方において ESD の 10 年の実質的なスタートの年となる。

ESD-J は 2006 年からの 3 年間で、国および地域レベルの「ESD 推進に必要な支援を提供できるしくみ」を模索し、そのビジョンを形成するための期間とし、国際的視点を踏まえつつ以下の方針で事業に取り組む。

- ① 政府による国内実施計画の実効性を担保するために各ステークホルダーと連携しながら、よりよい国レベルの推進体制を提案・創造する。
- ② 地域の先進事例からの学びを通じて、「ESD を推進する地域のしくみ」のモデルを地域とともに模索・創造する。
- ③ 地域の取組み段階に応じた支援メニューを開発・提供しつつ、全国レベルでの「ESD 推進のしくみ」を提案し実現に努める。
- ④ 「ESD を推進するしくみ」に必要な人材の養成に取り組む
- ⑤ 教育の担い手に対し、ESD への理解を広める
- ⑥ ESD の推進につながるあらゆる事業を、さまざまなテーマで活動する NPO をはじめ、行政・企業・教育機関など、多様な主体との対話や協働をとおして実施する

またこれらの活動を支えるため、事務所スペースの確保、スタッフ体制の充実など、事務局の強化をすすめていく。

II. 事業の内容

＊以下は事業ごとに区分したものであり、プロジェクトチーム区分に対応するものではない

★は新規事業

1. 地域ネットワークの形成および交流支援事業

地域のESDの担い手をネットワークすることを目的に、2003年から全国47都道府県での地域ミーティング開催をめざし、これまで27都道府県32地域で実施してきた。2006年度は引き続き未開催地に対し「ESD地域ミーティング」の開催を積極的に働きかけるとともに、既開催地の次のステップを支援する枠組みをつくる。

また、さまざまなテーマで教育活動に取り組んでいるNPOとの協働で、すでにある教育活動をESD的に発展させていくためのシナリオづくりに取り組み、シナリオ集を発行する。

- 1) 地域のESDサポート事業
 - ・第一ステップ＝地域ミーティングの開催支援（公募）
 - ・第二ステップ＝「ESD推進のしくみづくり」につながる企画の支援（公募）
- 2) 地域の実践交流セミナー（全国ミーティング）の開催
- 3) ESD実践シナリオの作成 ★

2. 政策提言および調査研究事業

「わが国におけるESDの10年実施計画」はESD推進の方向性は示しているものの、具体的な達成目標やそのための実施体制などの検討がなされていない。また、政府の事業のほとんどが現行事業の読み替えであり、ESDの10年を必ずしも反映していない。とくに重要な評価・モニタリングについては中間年に向けた評価指標も示していない。これらを官民協働でつくっていくための推進体制を提案していくと同時に、さまざまな主体とともに「官民協働によるESDを推進するしくみ」のビジョンづくりに取り組む。また、環境省のESDモデル事業に参画し、よい事例づくりの支援に取り組むことをとおして、全国事務局として必要な機能を整えていく。さらに、各省庁のESD関連事業推進のための政策提言や、自治体などのESDの10年推進実施計画の策定支援にも取り組む。

- 1) 「官民協働によるESDを推進するしくみ」のビジョンづくり
 - ・政府や企業などとの「ESD対話ミーティング」の実施
 - ・各省庁のESD関連事業推進のための政策提言
- 2) 環境省ESDモデル事業（全国事務局）★
- 3) 自治体のなどのESDの10年推進実施計画の策定を支援する ★

3. 研修および普及啓発事業

ESDの認知度を高めるため、さまざまな機関や主体とともに、ESDのセミナーや勉強会などを開催する。また要請に応じ出前講座を実施するとともに、ESDコーディネーターの養成研修の開発と実施に取り組む。

- 1) 関係機関や企業などとの共催によるセミナーの開催
- 2) 出前講座・研修・ワークショップの開催
- 3) ESD コーディネーター養成研修の開発・実施 ★

4. 情報収集・提供および出版事業

行政機関・自治体をはじめ、さまざまな主体に ESD が紹介されていくさいに、ESD-J などが行ってきたこれまでの議論が反映された情報・考え方が広がるよう、これまで作成してきた媒体を活用しつつ、さらなる情報発信に努める。また、情報発信の担い手が活用しやすいテキスト作成に取り組む。

- 1) 日英ウェブサイトの充実
- 2) 「ESD レポート」の継続発行
季刊、A4 版、8 ページ、各 6000 部
- 3) ESD ブックレット「ESD-J2006 活動報告書」の発行
地域実践シナリオ作成事業での成果を中心に作成する
- 4) 「ESD の 10 年」研修用テキストブックの制作・販売 ★
A5 版、48 ページ、2000 冊、販売予定価格 500 円
- 5) ESD 関連書籍の販売

5. 国際ネットワーク推進事業

国際ネットワークプロジェクトチームとしての運営体制の基礎整備をしてきた 3 カ年の活動をもとに、パートナーとなる / なる相手の国（団体）がみえてきたことをふまえ、2006 年度は実践期の 1 年目として動いていく。具体的には、アジア各国の ESD 実践の情報と事例の収集と共有をすすめつつ、アジアをベースとしたネットワークづくりの構築と実践への足がかりを積みあげていく。

- 1) アジア ESD 推進事業 ★
アジア地域における ESD 事例共同調査と 6 カ国語ウェブサイトの立ちあげ
- 2) ESD-AP 設立支援 ★
- 3) 海外の動きを国内へ、国内の動きを海外へ発信する

6. その他の事業

- 1) 地球環境基金「環境 NGO と市民の集い」
学生・教育機関・団塊世代との連携をテーマに秋に 3 回実施予定。各回、学生の環境 NGO やボランティアサポートに取り組む団体との協働で行う。

III. 実施体制

1. 役員等

< 理事 >

代表理事 阿部治

副代表理事 池田満之、重政子、竹内よし子

理事 浅川和也、伊藤通子、岩崎裕保、大島順子、大前純一、清水悟、新海洋子、
杵本育生、関口悦子、世古一穂、辻英之、降旗信一、前川実、宮崎稔、森良、
山本幹彦

< 監事 >

浅見哲、吉岡睦子

< 顧問 >

池田香代子、岡島成行、廣野良吉、坂本尚、CW ニコル、松浦晃一郎、水野憲一、三隅佳子

2. 事業実施体制

地域ネットワークの形成および交流支援事業…………… 地域ネットワーク PT (リーダー：森良)

政策提言および調査研究事業…………… 政策提言 PT (リーダー：池田満之)

研修および普及啓発事業…………… 研修事業 PT (リーダー：世古一穂)

情報収集・提供および出版事業…………… 情報共有 PT (リーダー：清水悟)

国際ネットワーク推進事業…………… 国際ネットワーク PT (リーダー：大島順子)

その他の事業…………… 事務局

3. 組織基盤強化担当

広報 PT (リーダー：大前純一)

財政基盤強化 PT (リーダー：重政子)

4. 事務局

事務局長：村上千里

スタッフ (常 勤) 佐々木雅一

(非常勤) 野口扶弥子、渡辺いずみ、二宮リムさち

2006 年度予算 (2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日)

I 収入の部	2006 予算	2005 実績	差異
1 会費収入	3,240,000	2,719,000	521,000
正会員 会費収入 (220 口)	2,200,000	2,020,000	180,000
準会員 会費収入 (180 人)	540,000	399,000	141,000
賛助会員 会費収入 (10 口)	500,000	300,000	200,000
2 事業収入	19,000,000	12,925,912	6,074,088
書籍販売等	200,000	118,780	81,220
環境省	12,000,000	5,250,000	6,750,000
環境 NGO と市民の集い	5,500,000	5,690,000	-190,000
研修収入	1,000,000	200,000	800,000
イベント収入	300,000	328,000	-28,000
その他事業		1,339,132	-1,339,132
3 助成金等収入	16,812,412	11,478,000	5,334,412
地球環境基金収入	8,000,000	8,500,000	-500,000
その他助成金		1,978,000	-1,978,000
松下マッチング基金	1,000,000		1,000,000
トヨタ G500 環境基金	7,812,412		7,812,412
協賛金収入	0	1,000,000	-1,000,000
4 寄付金収入	700,000	746,610	-46,610
寄付金収入	700,000	746,610	-46,610
5 雑収入	0	51	-51
受取利息	0	51	-51
6 借入金収入	8,000,000	200,000	7,800,000
短期借入金収入	8,000,000	200,000	7,800,000
7 その他の収入	350,000	646,986	-296,986
活動報告書・テキスト頒布	350,000	170,600	179,400
雑収入	0	451,386	-451,386
棚卸資産売却収入		25,000	
当期収入合計 (A)	48,102,412	28,716,559	19,385,853
前期繰越収支差額	3,895,227	5,762,509	
前期繰越収支差額調整額	0	0	
収入合計 (B)	51,997,639	34,479,068	

II 支出の部	2006 年度予算	2005 実績	差異
1 事業費*	30,630,000	24,891,053	5,738,947
情報提供事業	3,820,000	521,942	
研修・普及啓発事業	1,020,000	192,214	
政策提言事業	8,820,000	650,877	
地域ネットワーク事業	5,090,000	320,500	
国際ネットワーク事業	6,400,000	270,406	
その他事業	5,480,000	533,131	
2 管理費	9,110,000	5,220,288	3,889,712
人件費	3,400,000	303,317	3,668,21
保険料	950,000	41,500	908,500
理事報酬	120,000		120,000
会議費	30,000	14,041	15,959
交際費	0	3,570	-3,570
都内旅費交通費	600,000	49,162	108,373
理事会等旅費交通費	100,000	0	100,000
通信運搬費	700,000	59,874	101,256
消耗什器備品費	100,000	18,520	-85,200
消耗品費	200,000	21,084	-10,847
賃借料	1,250,000	24,000	1,010,000
支払手数料	300,000	5,587	244,124
租税公課	800,000	19,204	780,796
支払利息	100,000	0	100,000
税理士報酬	460,000	31,500	145,000
雑費		11,500	-11,500
3 固定資産取得支出	0	0	0
什器備品購入支出	0	0	0
4 借入金返済支出	1,500,000	500,000	1,000,000
短期借入金返済支出	1,500,000	500,000	1,000,000
5 その他の支出	300,000	0	300,000
予備費	300,000	0	300,000
当期支出合計 (C)	41,540,000	30,611,341	10,928,659
当期収支差額 (A) - (C)	6,562,412	-1,894,782	
次期繰越収支差額 (B) - (C)	10,457,639	3,867,727	

*うち、事業人件費:5,280,000 円

役員・顧問等名簿

代表理事	阿部 治	社団法人 日本環境教育フォーラム
副代表理事	池田 満之	岡山ユネスコ協会
	重 政子	特定非営利活動法人 自然体験活動推進協議会
	竹内 よし子	特定非営利活動法人 えひめグローバルネットワーク
理 事	浅川 和也	ハーグ平和アピール平和教育地球キャンペーン
	伊藤 通子	特定非営利活動法人 エコテクノロジー研究会
	岩崎 裕保	帝塚山学院大学国際理解研究所
	大島 順子	社団法人 日本ネイチャーゲーム協会
	大前 純一	特定非営利活動法人 ECOPLUS
	清水 悟	社団法人 農山漁村文化協会
	新海 洋子	エコプラットフォーム東海
	枚本 育生	特定非営利活動法人 環境市民
	関口 悦子	地球環境・女性連絡会
	世古 一穂	特定非営利活動法人 NPO 研修・情報センター
	辻 英之	特定非営利活動法人 グリーンウッド自然体験教育センター
	降旗 信一	
	前川 実	財団法人 アジア・太平洋人権情報センター
	宮崎 稔	習志野市立鷺沼小学校 / 学校と地域の融合教育研究会
	森 良	特定非営利活動法人 エコ・コミュニケーションセンター
	山本 幹彦	特定非営利活動法人 当別エコロジカルコミュニティ
監 事	浅見 哲	税理士浅見哲事務所
	吉岡 睦子	吉岡睦子法律事務所
顧 問	池田 香代子	ドイツ文学翻訳家・口承文芸研究家
	岡島 成行	社団法人 日本環境教育フォーラム 理事長
	坂本 尚	社団法人 農山漁村文化協会 専務理事
	CW ニコル	作家
	廣野 良吉	成蹊大学名誉教授
	松浦 晃一郎	国連教育科学文化機関（UNESCO）事務局長
	三隅 佳子	財団法人 アジア女性交流・研究フォーラム 理事長
	水野 憲一	TVE ジャパン
事務局長	村上 千里	

※ 現役員の任期は、2008年6月の総会までです
 ※ 顧問および事務局長は役員ではありません

団体正会員一覧

(2007年3月31日現在 計94団体)

- (財) アジア女性交流・研究フォーラム
- (財) アジア・太平洋人権情報センター (ヒューライツ大阪)
- (財) オイスカ
- (財) キープ協会
- (財) 京都ユースホステル協会
- (財) 日本環境協会
- (財) 日本自然保護協会
- (財) 日本野鳥の会
- (財) 日本ユニセフ協会
- (財) 日本 YMCA 同盟
- (財) ボーイスカウト日本連盟
- (財) ユネスコ・アジア文化センター
- (社) ガールスカウト日本連盟
- (社) 日本環境教育フォーラム
- (社) 日本ネイチャーゲーム協会
- (社) 日本ユネスコ協会連盟
- (社) 農山漁村文化協会
- (社) 部落解放・人権研究所
- 学校法人 日本自然環境専門学校
- 国立大学法人 岩手大学
- 国立大学法人 筑波大学 農林技術センター
- 国立大学法人 北海道大学
- NPO 法人 いきいき小豆島
- NPO 法人 岩木山自然学校
- NPO 法人 エコ・コミュニケーションセンター (ECOM)
- NPO 法人 ECOPLUS
- NPO 法人 NPO 研修・情報センター
- NPO 法人 えひめグローバルネットワーク
- NPO 法人 オーシャンファミリー海洋自然体験センター
- NPO 法人 開発教育協会
- NPO 法人 環境市民
- NPO 法人 環境文化のための対話研究所
- NPO 法人 環境まちづくりネット
- NPO 法人 キーパーソン 21
- NPO 法人 くすの木自然館
- NPO 法人 国頭ツーリズム協会
- NPO 法人 グリーンウッド自然体験教育センター
- NPO 法人 久留米地球市民ボランティアの会
- NPO 法人 国際自然大学校
- NPO 法人 コミネット協会
- NPO 法人 サイカチネイチャークラブ
- NPO 法人 しずおか環境教育研究会 (エコエデュ)
- NPO 法人 自然育児友の会
- NPO 法人 自然体験活動推進協議会
- NPO 法人 持続可能な社会をつくる元気ネット
- NPO 法人 白神自然学校一ツ森校
- NPO 法人 ダッシュ
- NPO 法人 生態教育センター
- NPO 法人 タブラ ラサ
- NPO 法人 地球環境と大気汚染を考える全国市民会議 (CASA)
- NPO 法人 地球と未来の環境基金
- NPO 法人 当別エコロジカルコミュニティ
- NPO 法人 奈良県民環境ネットワーク
- NPO 法人 ほっとねっと
- NPO 法人 ボランティア・市民活動学習推進センターいたばし
- NPO 法人 やまぼうし自然学校
- NPO 法人 ADP 委員会
- アースビジョン組織委員会
- ESDin 三重
- ESD 未来教育研究会
- エコテクノロジー研究会
- エコプラットフォーム東海
- OAK HILLS (オークヒルズ)
- 岡山市役所 環境保全課
- 岡山ユネスコ協会
- 環境 NGO アジア環境連帯
- 環境・国際研究会
- くりこま高原自然学校
- こくさいこどもフォーラム岡山
- 国際理解の風を創る会
- 「心のアラスカ」～星野道夫の思いを繋ぐ
- 識字・日本語連絡会
- 自然文化国際交流協会
- 持続可能な開発のための教育の10年酪農学園大学委員会 (ESD-R)
- 森林たくみ塾
- スリーヒルズ・アソシエイツ
- 世界女性会議岡山連絡会
- 全国学校給食協会
- 仙台いぐね研究会
- 創価学会平和委員会
- 地球環境・女性連絡会 (GENKI)
- 地球環境を守る会「リーフ」
- TVE ジャパン
- 帝塚山学院大学国際理解研究所
- とやま国際理解教育研究会
- 日本アウトドアネットワーク
- 日本環境ジャーナリストの会
- 日本ホリスティック教育協会
- ハーグ平和アピール平和教育地球キャンペーン (GCPEJ)
- ホールアース自然学校
- 緑の環・協議会
- 立教大学 東アジア地域環境問題研究所
- 有限会社 (有) バースセンス研究所
- 有限会社 (有) プラス・サーキュレーションジャパン

制作協力者一覧

..... あ▼

相星素子
浅川和也
朝山あつこ
アトゥール・パンデヤ
阿部治
安西英明
池田香代子
池田真里子
池田満之
市嶋彰
伊藤伸介
伊藤通子
牛山佳久
内田淳子
内村美紀
エリザベス・C. ロハス
大内敏史
大島順子
太田まさこ
大前純一
奥山淳
小栗有子
小里アリサ

..... か▼

梶野光信
片岡麻里
上條直美
カリヤニ・カンドウラ
川上千春

河邊裕子
河村久美
久須美則子
窪田栄一
小西ゆかり
小堀武信

..... さ▼

坂山英治
嵯峨創平
佐々木雅一
佐藤真久
新海洋子
嶋野道弘
清水悟
志村智子
諏訪茂子

..... た▼

田中治彦
玉井暁大
玉真之介
W. チャド・フュートレル
ディル・バハドゥール・シュレスタ
デニス・K.H. ユン
富沢泰夫

..... な▼

内藤元久
長岡素彦
中野民夫

中山修一
長倉義信
二ノ宮リムさち
野口扶弥子
野田恵

..... は▼

フェリ・プリハントロ
藤田和芳

..... ま▼

前川実
松下俱子
村上千里
森江章
森良

..... や▼

安井至
山崎恵
吉村敏

..... ら▼

リ・チエ

..... わ▼

若林千賀子
脇田知恵
渡邊宏美
渡辺峰生

地域からつくる ESD

～ ESD シナリオづくりに向けて

2007 年 3 月 第 1 刷発行

発行人：阿部 治

発 行：特定非営利活動法人「持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-67 コスモス青山 B2F

TEL：03-3797-7227 FAX：03-6277-7554

URL：http://www.esd-j.org

E-mail：admin@esd-j.org



この報告書の一部は独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金の助成を受けて作成いたしました
この報告書は古紙 100%、白色度 70% の再生紙を使用しています

